人吉市復興まちづくり　地区別懇談会
「全体報告会」

日時：令和３年１０月１６日（土）１４時～
場所：人吉スポーツパレス小アリーナ

【次　第】

１．開会
２．挨拶
３．地区別懇談会の取組経過の報告
４．各地区復興まちづくり計画案の説明
５．今後の進め方など
６．質疑応答
７．参加者全員で写真撮影
８．閉会

地区別懇談会の取組経過の報告

地区別懇談会の取組経過

４月
- 復興計画等の概要説明
- 重点地区の考え方と地区別懇談会の進め方

５月
- 治水対策とまちづくり・避難の考え方について
- 出水期に向けた避難等のあり方について

６月
- 復興まちづくりの方向案について
- 復興まちづくりのイメージ案について

７月
- 復興まちづくりの具体的な取組み方向案について

８月

中間報告会
- 地区別懇談会の取組経過の報告
- 復興まちづくりリレートーク
  （学識経験者等ゲストスピーカーによる知見の紹介や応援メッセージ）

９月
- 復興まちづくり計画（たたき台）について

10/16

全体報告会
- 各地区復興まちづくり計画案の説明
- 今後の進め方について

地区別の復興まちづくり計画
（地区別懇談会作成案）

地区別懇談会での提案の取りまとめ
（全体の方針、ロードマップ等を含む）

→ **地区別懇談会だより第１号発行**

→ **地区別懇談会だより第２号発行**

→ **地区別懇談会の取組状況のお知らせ**

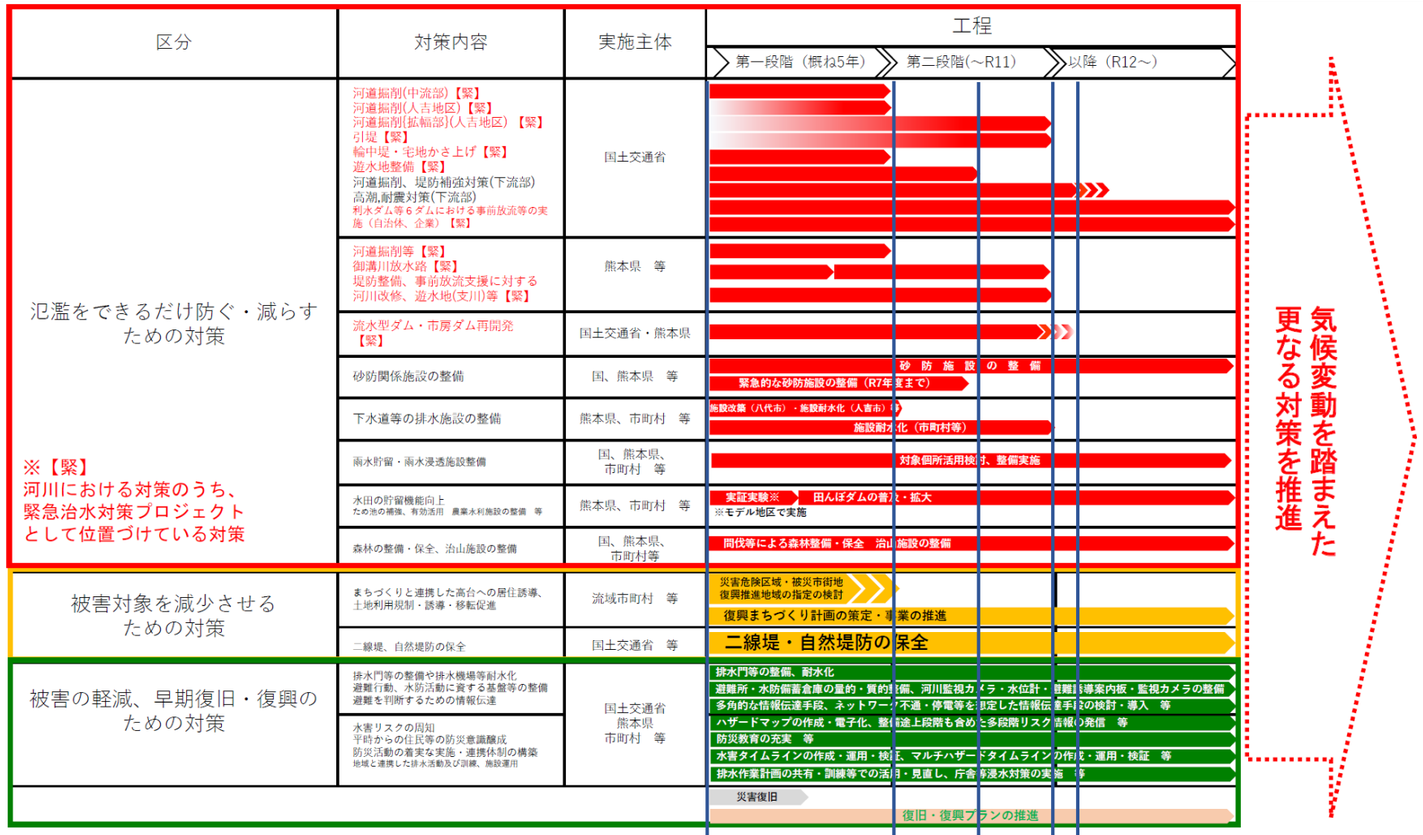
→ **地区別懇談会だより第３号発行**

・令和３年度出水期までに可能な限りの堆積土砂の撤去や堤防決壊箇所の本復旧を実施するほか、緊急治水対策プロジェクトを推進し、対策が完了した後に浸水想定が変わるとされています。

球磨川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】 9

～流域のあらゆる関係者が協働し、まちづくりと連携した治水対策の推進～

〇上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国・県・市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
【令和3年度出水期まで】可能な限りの堆積土砂の撤去及び堤防決壊箇所の本復旧と合わせて、タイムラインの改善等を緊急的に実施する。
【第一段階】堆積土砂の撤去、災害復旧工事を進めるとともに上下流バランスを考慮の上、河道掘削を最大限実施し進捗を図る。輪中堤・宅地かさ上げをまちづくり等と連携して完成させる。また、遊水地、引堤等に必要な用地確保に着手。下流部においては、河道掘削、堤防補強等を推進。県区間においては放水路整備や河道掘削等を推進。流水型ダム、市房ダム再開発の調査・検討に着手し進捗を図る併せて、下水道施設の整備、災害危険区域・被災市街地復興推進地域の指定の検討、ハザードマップの作成等を推進する。
【第二段階】早期に遊水地を完成。河道掘削[拡幅部](人吉地区)、引堤、県区間堤防整備、遊水地(支川)等の完成。引き続き、流水型ダム、市房ダム再開発の進捗を図る。下流部においては、河道掘削、堤防補強等を推進。併せて、田んぼダムの普及・拡大を推進する。
【以　　降】下流部の堤防補強対策、流水型ダム、市房ダム再開発について、完成を図る。また、流域治水プロジェクトの進捗に応じ、上下流バランスに配慮しながら、上流部の河道掘削の検討を行う。併せて、水防災教育に関する支援や関係機関が連携した水防訓練を継続する。

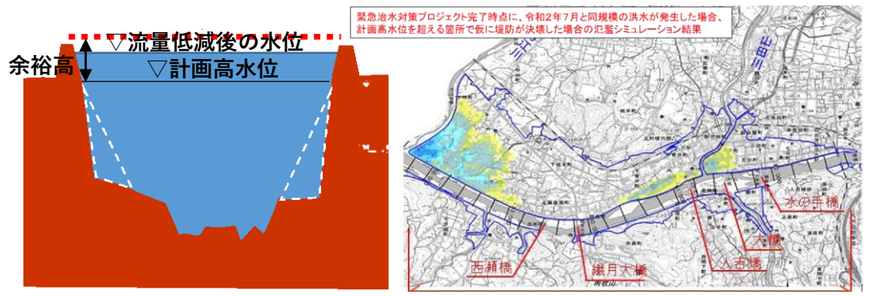


気候変動を踏まえた更なる対策を推進

河川区域での対策効果イメージ（人吉市街部）

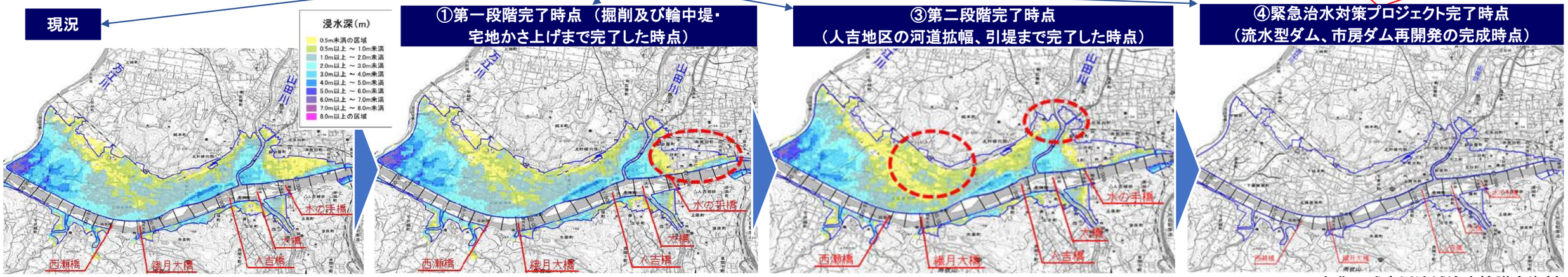
※ただし、計画高水位を超える洪水が流下することから堤防決壊による氾濫が発生するリスクがあり、万江川、山田川合流点付近において３ｍを越えて浸水すると推定されている。

※ただし、令和２年７月豪雨を越える想定最大規模の降雨があった場合には、堤防等では防ぎきれず、広範囲で浸水すると想定される。



■各段階における浸水想定

現況　①　②　③　④



※出典：球磨川流域治水協議会資料

復興まちづくりの３つの柱と４つの視点

- 今次水害からの復興にあたっては、球磨川水系流域治水プロジェクトに基づく治水対策の推進を前提とします。
- 「被災者のくらし再建とコミュニティの再生」、「力強い地域経済の再生」、「災害に負けないまちづくり」の３つの柱を取組の軸とします。
- 「災害に負けないまちづくり」を実現するため、復興まちづくりの４つの視点に沿って取り組みを進めます。

【復興に向けての３つの柱】

①被災者のくらし再建と
コミュニティの再生

②力強い地域経済の再生

③災害に負けない
まちづくり

【復興まちづくりの視点】

視点１：持続可能な都市構造を支える土地利用の実現

視点２：安全性の高い建て方の誘導

視点３：避難方法の見直し

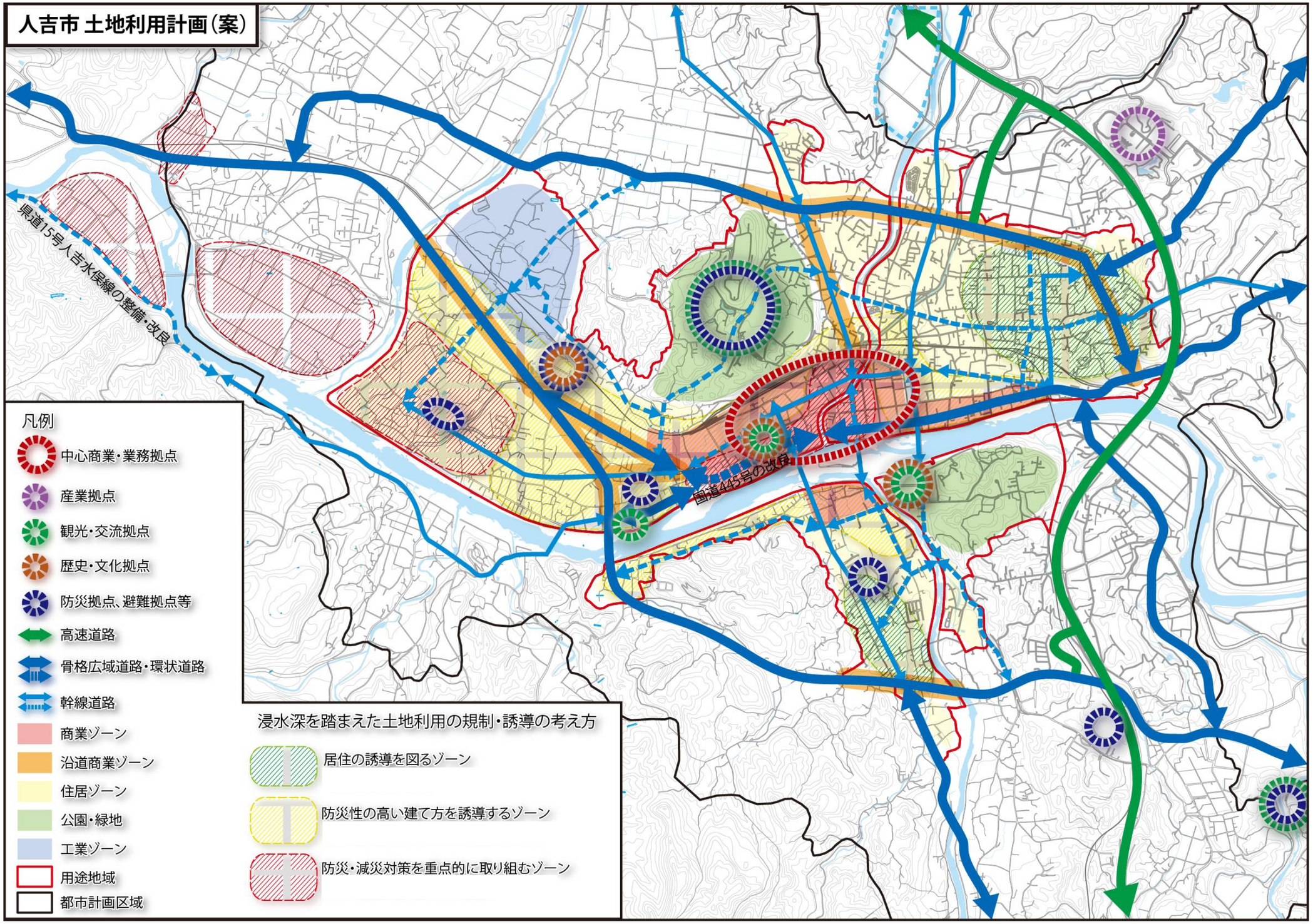
視点４：流域治水の取組

復興まちづくりの３つの柱と４つの視点【視点１・２】

視点１：持続可能な都市構造を支える土地利用の実現

視点２：安全性の高い建て方の誘導

浸水深に応じた土地利用の規制・誘導の考え方を踏まえ、土地利用の規制および誘導、安全性の高い建て方の誘導を図るとともに、防災・減災対策を重点的に取り組みます。



復興まちづくりの３つの柱と４つの視点【視点３】

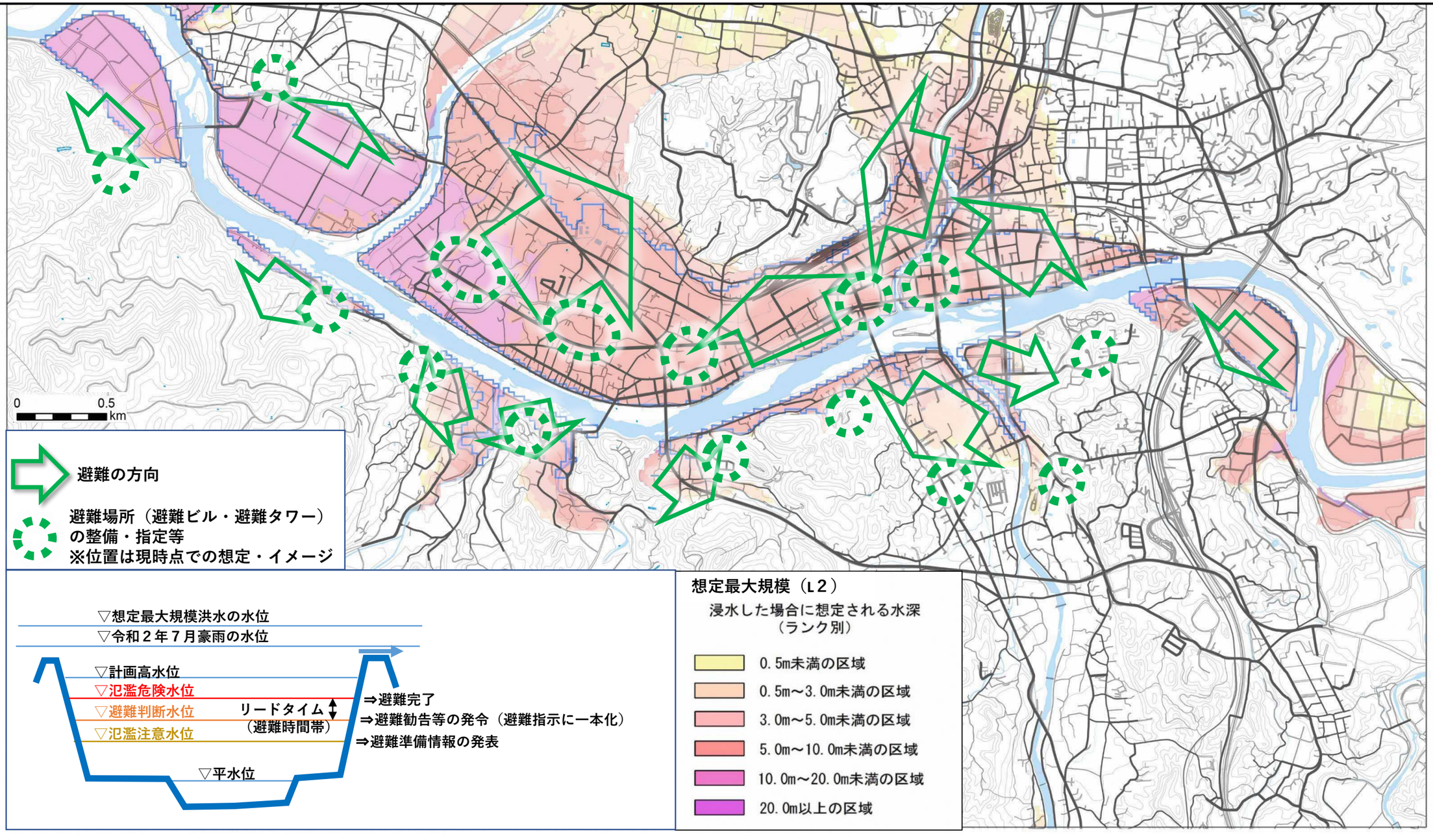
視点３：避難方法の見直し

想定最大規模降雨L2の浸水想定区域・浸水深を基に、指定緊急避難場所・指定避難所等の定義、避難の考え方と必要な施設を整理し、安全に避難するための避難路・避難場所の整備に取り組みます。

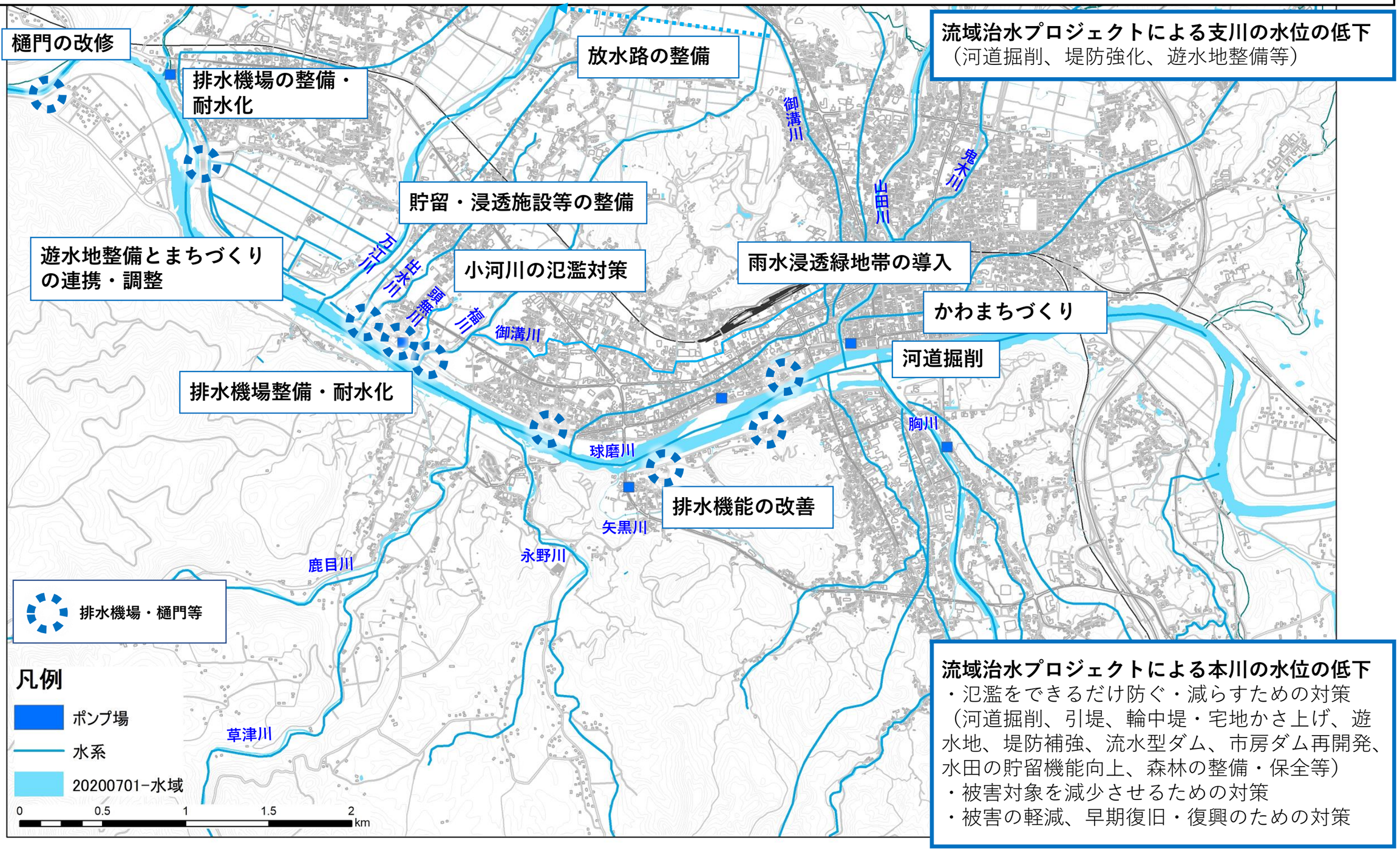
①大雨に関する災害が予想された段階で、事前に浸水しないエリアへ避難

②リードタイム（避難時間帯）に浸水しないエリアに避難　⇒避難路整備、浸水しないエリアや高台の避難所整備

③リードタイム（避難時間帯）に避難が困難なエリアにおける緊急避難、逃げ遅れた時に緊急避難　⇒避難路、避難場所整備、避難ビル指定、垂直避難ができる災害に強い建築物の建て方を誘導



復興まちづくりの３つの柱と４つの視点【視点４】

視点４：流域治水の取組

○国・県・流域市町村が連携して「球磨川水系流域治水プロジェクト」に基づく取り組みを集中的に実施し、本川・支川の水位の低下を図り、令和２年７月豪雨と同規模の洪水に対して越水による氾濫を防ぐ。
○小河川の氾濫対策、排水機能の改善、貯留・浸透施設等の整備、遊水地整備、かわまちづくり等について、まちづくりと連携・調整して取り組み、地域の安全性の向上や避難時間の確保を図る。